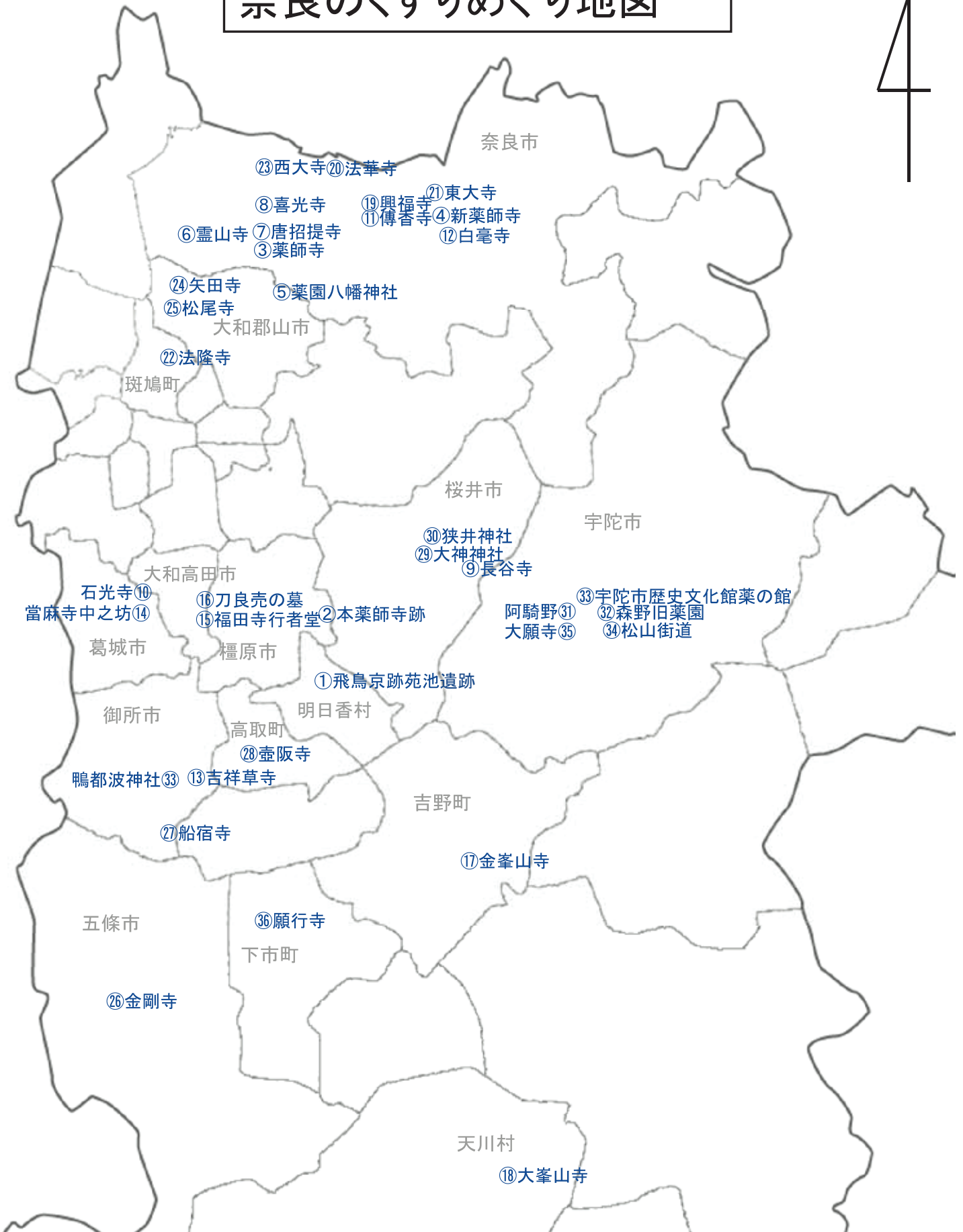


奈良のくすりめぐり地図



「奈良のくすり」めぐり

1. 朝廷の医薬を支えた薬草木 ～ 飛鳥・奈良時代の薬園 ～

飛鳥時代、朝廷は大陸から医術や仏教の伝来を進め、薬物は民を養う要物として薬草木の収集や栽培を始めました。当時、薬園があったスポットを訪ねてみましょう。



① 飛鳥京跡苑池遺跡

飛鳥時代の庭園遺跡で、薬園、桃園、梨園等を示唆。

旅する明日香ネット →



② 本薬師寺跡

天武天皇が藤原京に建立され薬園も設けられた。

かしはら探訪ナビ →



③ 薬師寺

薬園との縁があり、参道では薬草が出迎える。

公式ホームページ →



④ 新薬師寺

奈良時代の古文書に寺園や温室があった記録が残る。

公式ホームページ →



⑤ 薬園八幡神社

平城京の南方の梨原の地の薬園に由来する神社。平安末期に現在の地に移る。

大和郡山市ホームページ →



⑥ 霊山寺薬師湯殿

平城京の東方の地で病人を癒すために薬草を栽培し薬湯を設け諸人の病を治した。

公式ホームページ →



2. 仏教とも関わり深い薬草木 ～ 民衆への想い ～

鑑真和上と蓮、空海と牡丹、修二絵と椿など、古くから仏教と花は深い縁があるようです。そして、その多くが薬草木であります。今、それらの薬草木の花が楽しめるスポットを訪ねてみましょう。



⑦唐招提寺

鑑真和上が、唐から多くの薬物とともに蓮根も持参し開創以来大切に栽培。
公式ホームページ →



⑧喜光寺

行基。『東大寺要録』に、「建立諸国堂舎四十九箇所。殖薬木為末世衆生也」とあり
公式ホームページ →



⑨長谷寺

空海ゆかりの牡丹が150種類以上、7,000株咲き乱れる。四季を通じた「花の御寺」
公式ホームページ →



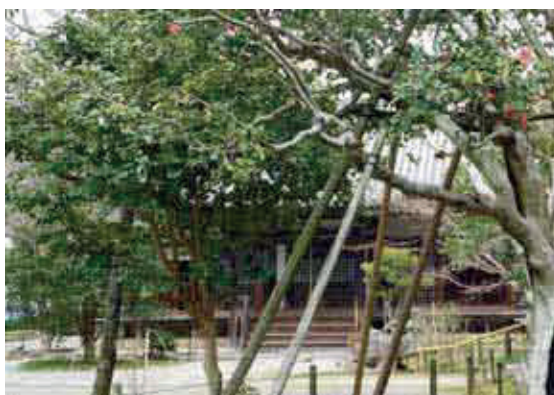
⑩石光寺

格の高い仏花の牡丹のほか芍薬の多数の品種を愛し守り続ける。寒牡丹もあり
公式ホームページ →



⑪傳香寺

椿は霊木として珍重されてきた。境内の「散り椿、武士椿」は奈良三銘椿の1つ。
なら旅ネット<奈良県観光公式サイト>→



⑫白毫寺

奈良市内を一望。境内の椿は、天然記念物の「五色椿」で奈良三銘椿の1つ。
奈良市観光協会ホームページ →



3. 日本最古の和漢薬 ～ 役行者伝説 ～

修験道の開祖とされる役行者。日本の至る処で伝説が残る役行者。そのルーツは奈良の地にあり、日本最古の和漢薬が残ります。役行者の活躍を伝えるスポットを訪ねてみましょう。



⑬吉祥草寺

役行者生誕の地。当時、門前に大釜を据えて薬草木を煎じ疫病から民衆を救いました。

公式ホームページ →



⑭當麻寺中之坊

オウバクを煎じる大釜が残り、秘伝の陀羅尼助を伝える。牡丹園もあります。

公式ホームページ →



⑮奥田の蓮取り行事(福田寺行者堂)

捨篠池で切り採った蓮を金峯山寺の行者ら一行が、役行者の母である刀良売を祀る行者堂で勤行、刀良売の墓に蓮華を献じて護摩供養をした後、吉野へと向かう。

大和高田市ホームページ →



⑯刀良売の墓



⑰金峯山寺

役小角開祖。蔵王権現像を祀る。「山下の蔵王堂」と呼ぶ。役行者像があります。

公式ホームページ →



⑱大峯山寺

大峯山山上ヶ岳の山頂に建つ。「山上の蔵王堂」と呼ぶ。役行者の像が多数あります。

洞川温泉観光協会ホームページ →



4. 僧の民衆救済の心を薬草木が具現化 ～ 寺社の施薬 ～

奈良時代に興福寺に悲田院と施薬院が設けられて以来、僧と医療は近くにあり、鎌倉時代に入り僧医という役割が明確化されていきます。施薬で民衆の健康を担ったスポットを訪ねてみましょう。



①興福寺

英俊らの「多聞院日記」に、薬の服用や調合の記録あり、医薬や養生法が普及した。
公式ホームページ →



②法華寺

光明皇后が総国分尼寺として建立。千人の衆生の垢を流された伝説の浴室あり。
公式ホームページ →



③東大寺

生薬を大切にされた聖武天皇、多くの生薬をもたらした鑑真和上など、薬との縁が深い
公式ホームページ →



④法隆寺

53種の漢方薬と生薬82種が記載された室町時代前期の「医薬調剤古抄」が残る。
公式ホームページ →



⑤西大寺

鎌倉時代に叡尊上人が寺を再建。豊心丹の製造や施薬に係る版木が多数残る。
公式ホームページ →



⑥矢田寺

金玉丹、豊心丹などの版木が念佛堂に残り、当時の施薬を物語る。
公式ホームページ →



4. 僧の民衆救済の心を薬草木が具現化 ～ 寺社の施薬 ～ つづき



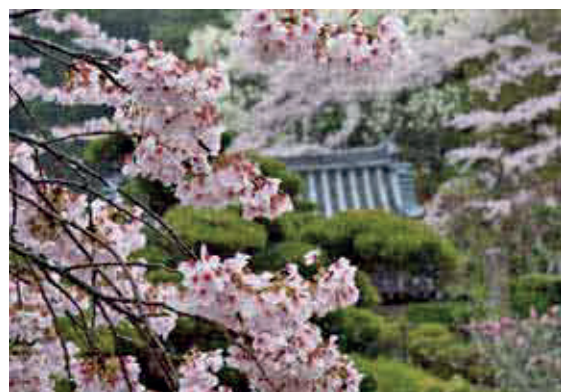
②⑤松尾寺

保寿丹、春明丸、安中散、豊心丹などの版木が残り、中世の施薬を物語る。
公式ホームページ →



②⑥金剛寺

豊心丹などを施薬していたことを伝える版木・摺写物等、56点を所蔵する。
公式ホームページ →



②⑦船宿寺

役行者が薬草木から薬を造り施薬したことが、この地域での薬業発展につながる。
御所市観光協会ホームページ →



②⑧壺阪寺

眼病に靈験あらたかな寺として信仰されてきた、壺阪靈験記で有名。
公式ホームページ →



5. 祈りから薬へ

古代、朝廷は、治病や除災のため加持祈禱に頼るほか、大陸の医術や文化を積極的に取り入れました。奈良時代から続く薬のお祭り(鎮花祭)を訪ねてみましょう。



②⑨大神神社

大宝律令で定められた鎮花祭が執り行われる。薬草木がある「くすり道」があります。
公式ホームページ →



③⑩狭井神社

拝殿の左後ろに、この神社由来の神水の井戸、狭井があり、「薬水」と呼ばれます。
桜井市観光情報サイト →



6. 江戸幕府の薬種国産化政策 ～ 森野旧薬園と下市の薬園 ～

611年に薬獵が行なわれた宇陀には、吉宗の時代の薬種国産化政策に協力した森野藤助が薬園を拓いた。当時、下市にも薬園が設けられた。薬草木文化の地を訪ねてみましょう。



③①阿騎野(かぎろひの丘、万葉公園)

611年の薬獵の地。柿本人麻呂の秀歌を刻んだ歌碑が立ち当時を忍ばせる
→ 宇陀市ホームページ



③②森野旧薬園

森野藤助が1729年開いた日本最古の施設薬草園。約250種類の薬草木を栽培。
公式ホームページ →



③③宇陀市歴史文化館「薬の館」

薬問屋細川家の旧住宅(築150年)を利用。薬の看板、資料など多数展示される。
なら旅ネット<奈良県観光公式サイト>→



③④松山街道

江戸時代、商家町として栄え、最盛期には50軒以上の薬問屋が軒を並べていた。
公式ホームページ →



③⑤大願寺の薬草料理

江戸時代、織田家の祈願所。当時の精進料理に薬草を使った料理へと変遷していく
公式ホームページ →



③⑥願行寺

下市町にも植村左平次は再三訪れ、願行寺、堀池、樺の木に薬草園が拓かれた。
公式ホームページ →

